

現場をデジタル化

整理整頓 棚卸し支援 統合管理サービス

日立システムズは、製造現場のデジタル化を支援する取り組みで、2021年度に売上高100億円を目指す。顧客に代わって設備や予備品の棚卸しをする「現場作業代行」、業務の可視化や標準化を行う「台帳作成」によって製造現場のデジタルライゼーションを進める。18年度の売上高目標は50億円。スマートファクトリーに取り組み大手製造業を開拓し、売上高倍増を狙う。

日立システムズが拡大

日立システムズは製造現場のデジタルライゼーションを支援する取り組みを「統合資産管理サービス」として提供している。一般的な製造業のIT化は設備や周辺機器にセンサーを取り付けるところからスタートするが、同社のサービスは製造現場の整理整頓や棚卸しから始めるのが特徴。設備や予備品、治工具の数

日立システムズは製造現場のデジタルライゼーションを支援する取り組みを「統合資産管理サービス」として提供している。一般的な製造業のIT化は設備や周辺機器にセンサーを取り付けるところからスタートするが、同社のサービスは製造現場の整理整頓や棚卸しから始めるのが特徴。設備や予備品、治工具の数

で実施する。価格は個別見積もりだが、400万～500万円程度。その上で、製造現場のITシステム構築も行う。同サービスの活用により、資産管理

業務の作業工数を90%程度削減するほか、部品・予備品の10%程度の削減や、生産設備の故障を20%程度低下する。棚卸しなどは同社の保守業務を担う全国300拠点3000人の人員を活用する。

た。利益が出るモノづくりにはIoT(モノのインターネット)の活用が重要で、それは設備や予備品を把握するなど足元の見える化が大事だ」としている。

りする。

1ライン5000-

1万点の設備や予備品の見える化を約2カ月